公益財団法人岩手県文化振興事業団 第23回評議員会議事録

1 開催日時 令和7年6月17日(火) 午後1時30分～午後3時00分

2 開催場所 サンセール盛岡 1階 エメラルド

3 出席者 評議員総数 9名

出席評議員 8名

評議員 佐々木 民夫

評議員 柴田 道明

評議員 鈴木 淳

評議員 高橋 信雄

評議員 中村 光紀

評議員 藤澤 清美

評議員 藤田 芳男

評議員 眞下 卓也

出席理事 2名

理事長 石田 知子

理事 岩渕 計

出席監事 2名

監事 佐々木 恵太

監事 田村 均次

4 議長 評議員 佐々木 民夫

5 決議事項

議案第1号 令和6年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認について

議案第2号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

6 報告事項

報告事項 令和6年度事業報告及び附属明細書について

7 議事の経過の要領及びその結果

定刻、事務局長が、本評議員会は、定款第20条の規定に定める定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。次に、本日の決議事項に特別の利害関係を有する評議員がいないことを確認した後、開会を宣した。

石田理事長の挨拶の後、定款第19条の定めに従い、出席した評議員の互選により選出された佐々木民夫評議員が議長となり、以下の議事を進行した。

なお、議事録署名人については、議長一任とする提案がなされたので、議長は、鈴木淳評議員と眞下卓也評議員を指名、全員異議なく承認され、両人も承諾した。

[報告事項]

(1) 報告事項 令和6年度事業報告及び附属明細書について

議長から、議案第1号と報告事項とは関連があるので、報告事項の令和6年度事業報告を行い、その後に議案第1号を決議することについて提案があり、全員異議無く承認された。

令和6年度事業報告については、別紙議案書に基づき、業務支援室総務課長、県民会館業務管理課長、埋蔵文化財センター総務課長、博物館副館長及び美術館副館長から説明がなされ、全員異議なくこれを了承した。

《質疑事項等》

【藤澤評議員】

博物館で行っている遺跡調査について、埋蔵文化財センターとの棲み分け、基準などはあるか。

【博物館参事】

博物館で行う遺跡調査は、学術目的の発掘調査であり、埋蔵文化財センターで行う調査は、各種工事に伴う事前の行政手続きとしての緊急発掘調査として行っている。

【藤澤評議員】

埋蔵文化財センターについて、遺物の保存期間とか、保存の仕方もいろいろあると思うが、遺物の保管場所が膨大にならないか。

【埋文調査研究課長】

遺物に関してはセンターの中にプレハブや収蔵庫がいくつかあるが、東和高校に保管しているものもある。

また、市町村に譲渡するなど、限られたスペースの中で、現在収納できるように調整している。

最近は記録類についてもデジタル化を進めており、物量的に保存する量を削減することを試みている。

【佐々木評議員】

博物館、美術館、平泉などの入館者について、県内、県外、海外に分けて管理しているのか。

【博物館総務課長】

博物館は、入館者について、団体・障がい者のみ、県内、県外に分けてカウント。

海外からの入館者については、分かる範囲でどこの国かをカウントしている。

【美術館総務課長】

美術館については、来館者について県内、県外の調査をしており、海外についても、出来る範囲で把握している。

【業務支援室総務課長】

平泉ガイダンスセンターについては、昨年度末で指定管理を終了しているが、統計的に区分けはしていない。

【佐々木評議員】

入館者の推移、区分けだけでなく、出来れば動機などについても把握し、情報を公表していただきたい。

〔決議事項〕

(2) 議案第1号 令和6年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び附属明細書並びに財産目録の承認について

議長は議案第1号を上程し、総務部総務課長から別紙議案書に基づき説明するとともに、佐々木監事による監査報告がなされ、その賛否を諮ったところ、全員

異議なくこれを承認可決した。

(3) 議案第2号 公益財団法人岩手県文化振興事業団理事の選任について

議長は議案第2号を上程し、業務支援室総務課長から別紙議案書に基づき説明、その賛否を諮ったところ、全員異議なくこれに賛成したので、次のとおり選定した。

理 事 住所 岩手県紫波郡矢巾町大字南矢幅第8地割360
氏名 石田 知子

理 事 住所 岩手県一関市三関字神田167-4
氏名 岩渕 計

理 事 住所 岩手県滝沢市後496番地5
氏名 長内 努

理 事 住所 岩手県盛岡市北松園2-24-4
氏名 熊谷 常正

理 事 住所 岩手県岩手郡雫石町長山麓台久保13番地79
氏名 鎌田 徳幸

理 事 住所 岩手県紫波郡矢巾町大字又兵エ新田第4地割385
エリヴェールⅡ402号室
氏名 坂本 美知治

理 事 住所 岩手県花巻市石鳥谷町好地第8地割59-5
氏名 佐々木 真一

理 事 住所 岩手県岩手郡岩手町大字沼宮内7-21
氏名 柴田 和子

理事 住所 岩手県奥州市水沢字水山 82-2
氏名 菅原 義子

8 その他

《各評議員からの意見・質問等》

【柴田評議員】

先日創立 40 周年の記念式典と祝賀会に出席をさせていただき、改めて各施設と歴代の役職員の皆様のご貢献に敬意を表する次第である。

少子高齢化、人口減少、施設の老朽化が進む中、予算も年々厳しくなってきたおり、今後とも、理事長を中心に県民が芸術文化により親しみ、楽しみながら、豊かな心を育み、幸せを感じられるような事業の取り組みを工夫して、これからも展開していただきたい。

【高橋評議員】

文化振興事業団が 40 周年ということは、県民会館、埋文センター、博物館は約 50 年になっており、施設の劣化の問題が生じていると思うので、是非その辺も考慮して欲しい。

また、先程、藤澤評議員からあった収蔵の問題について、資料は今後も増える可能性があり、今から取り組みが必要だと思うので、是非その辺を検討して欲しい。

【藤澤評議員】

文化振興基金を活用しており、非常に感謝している。

基金の原資は、毎年 1000 万円ほど取り崩しているようだが、基金事業を継続していることに敬意を表する。

先日の 40 周年の式典、祝賀会については、公益法人としての役割を立派に果たしながら迎えた 40 年間にふさわしく、演奏などの企画が大変良かったと感じている。

【藤田評議員】

それぞれの事業所の特性を生かした企画を今まで以上に行うなど、県民の文化振興に資する取組などを一層進めていただきたい。

【眞下評議員】

文化振興事業団の日ごろの活動に敬意を表するとともに、40周年記念式典・祝賀会も大変お疲れ様でした。

決算報告でトータルの収支の報告はあったが、事業毎の収支は出しているのか。公益財団法人なので、利益が目的ではないと思うが、それぞれの事業毎の収支を、お示しいただければ、分かりやすい。

【業務支援室総務課長】

議案書には入っていないが、内部では事業別収支として把握しており、事業ごとの黒字や赤字は出している。

機会があれば、そのようなところもご報告しながら進めさせていただきたい。

【田村監事】

今、事業別収支報告の話があったが、監査には出てくるが、全部を表すには、大きな表でもないと、なかなか厳しいものがあるかと思う。

最近、施設の劣化に伴う修繕の話が必ず出てくるようになり、職員の方々も含めて皆が心配をしているという状況が続いている。

どこからも建て替えの話が出てこないところを見ると、しばらくは使っていかなければならないという問題があるので、評議員の皆さんにも、是非、美術館、博物館、県民会館の維持のためにはそれなりのお金が必要だということを、言っていただければありがたい。

【佐々木監事】

いま、財務諸表関係の話が出ていたが、10年ちょっと前くらいから、公益法人制度改革があり、公益財団法人に移行する際に財務諸表がガラッと変わった。

収支ベースだったものが損益ベースになるなどの大幅な変更だったが、今度また公益法人制度改革があり、財務諸表の内容が大きく変わることになる。

新制度への対応は、見た目上は変わらないようでも、内部の事務作業には

大分手間がかかると思うので、そういった部分で、効率化を図るため、予算を措置することも必要になってくると思われることから、評議員の皆さんもぜひその辺をご理解いただきたい。

【中村評議員】

美術館の企画展についての感想を申し上げたい。

柚木沙弥郎展は、非常に伸び伸びとしたみずみずしい造形感覚の展覧会で、非常に良かったと思っている。

菅木志雄のグランドギャラリーを使ったインスタレーションは、美術館が、画廊彩園子と同時開催した初めてのケースだと思うが、非常に評価していいと思う。

画廊というのは、いかに売ったかではなく、いかに優れた作家をその画廊から育てたか、世の中に出したかということが評価の基準になり、かつては盛岡第一画廊という優れた画廊があった。

まちなかでちゃんとした活動を行っている画廊と美術館が、時には連携して、同時開催のような形で行うことは非常に評価出来るのではないかと思った。

【鈴木評議員】

県民会館、県立博物館は、岩手国体を記念して作られた約 50 年前の会館であり、ここには関係ないが県営体育館とか運動公園など、半世紀以上前の施設もある。

これらの施設の改築、新築には、少子高齢化の時代の中で、取捨選択が必要となることも出てくるかもしれないが、文化、スポーツというのは、岩手県の魅力を高めるものになることから、計画的な方針や、抜本的な施設の見直し等がこれから必要になってくると思う。

美術館に対して、何点か提言させていただく。

県立美術館は条例で貸館事業が出来ないということだが、ある程度の利益を追求していく必要もあると思うので、貸館事業を開始してはどうか。

また、美術館内に喫茶スペースは、今使われていないということだが、訪れる方の憩いの場として、解放するべきではないかという意見が利用者の方から何回か聞いている。

昨年度の実績において突出したのがサンリオ展で3万人ということだが、やはり、万人受けする事業の採択というものも必要になってくると思う。

文化活動を維持するためにもお金がかかる時代になっており、我々企業としてもいろいろな協力を行うので、より良い県づくりに貢献していただきたい。

【佐々木評議員】

P D C A (plan-do-check-act)について、PとDについては毎年報告されるが、CとAの動きも共有すべきだと思う。

今、博物館の館長さんから新しい取り組みを説明してもらったが、そういうものを広く周知共有することにより、事業団の運営について、県民の信頼性を勝ち取ることに繋がると思う。

P D C Aを念頭に置きながら、この評議員会の中でも話をしていただきたい。

【石田理事長】

評議員の皆様から様々なお助言をいただき、ありがとうございます。

来年は、どのような形で皆様にご理解していただける報告が出来るか、考えさせていただく。

私が事業団理事長に就任して4年目になるが、この間、県教委の第三者委員会の方からガバナンスを強化して欲しいという話があり、今まではそれぞれの事業所が主体にやっていたものを、館所長会議という場を設け、課題を共有することになっている。

その中で各評議員の皆様から出されているような話も出ており、我々はどのような仕事をしているのかをもう少し発信しなければならないと思う。

我々自身が変わらなければならないのではないかとすることは共有しており、これからもう少し情報発信させていただきたいと思っている。

今後ともいろいろとご意見など、この場でなくてもいいので、お知らせいただきたい。

議長は、以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了した旨を述べ、午後3時00分閉会した。

9 議事録作成者 事務局長 佐々木 真一

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人2名がこれに記名押印する。

令和7年 月 日

公益財団法人岩手県文化振興事業団 第23回評議員会

議長 _____ 印

評議員 _____ 印

評議員 _____ 印